2019/4/30

# 特定非営利活動法人 女性技術士の会

# ニュースレター vol.39

暖かい日差しに包まれて様々な花の咲き始める新年度になりました。それと同時に、5 月からの新元号が「令和」と発表され、いよいよ新しい時代の幕開けです。

本ニュースレターは、特定非営利活動法人女性技術士の会会員のみなさまへ、本法人の活動内容を中心にお知らせいたします。第 39 号では、2019 年 1 月～4 月の活動報告、会員からの発信、運営報告、今後の活動予定などをお届けします。今回も楽しい記事が満載ですので、どうぞお楽しみください。

なお、ニュースレターではみなさまからの投稿記事を募集しますので、仕事のこと、趣味のことなど、お気軽に投稿してください。詳細は巻末のアドレスまでお問い合わせください。

**CONTENTS**

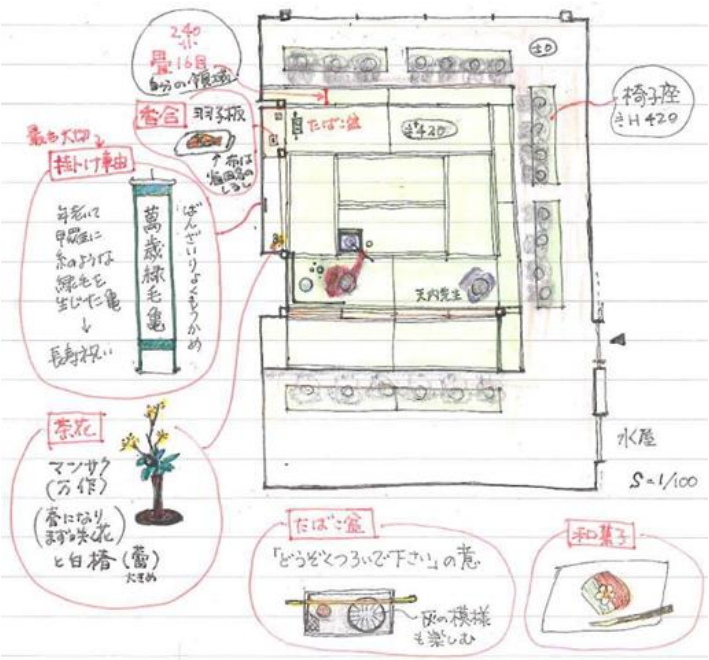

| | | |
|---|---|---|
| **活動報告** | | 2 ページ |
| ■ 2019/01/27 | （続報）勉強会　～禅とお茶で味わう新春勉強会～ | 2 ページ |
| ■ 2019/01/27 | （続報）本法人設立 25 周年記念行事・2019 年新年会 | 2 ページ |
| ■ 2019/02/17 | 震災復興支援事業「福島高等専門学校女子学生を招待しての茶話会」 | 3 ページ |
| **震災復興支援事業対象者の感想** | | 3 ページ |
| ■ 加藤陽香さん | 「茶話会に参加して」 | 3 ページ |
| ■ Ｓ．Ｓさん | 「茶話会での意見交換を終えて」 | 4 ページ |
| **会員からの発信** | | 5 ページ |
| ■ 酒井一江さん | 「Ｕターンして天駆ける！」 | 5 ページ |
| **【シリーズ企画】技術士の部門紹介　第 10 回　農業部門/農村環境** | | 6 ページ |
| ■ 木村了さん | 「国の根幹を支える農業」 | 6 ページ |
| **運営報告** | | 7 ページ |
| **今後の活動予定** | | 8 ページ |
| ■ 2019/05/25 | 第 12 回通常総会 | 8 ページ |
| ■ 2019/09/19～22 | INWES APNN 2019 CONFERENCE in ネパール（カトマンズ） | 8 ページ |
| ■ 2019/10/11 | 第 13 回日中韓女性科学技術指導者フォーラム | 8 ページ |
| ■ 2019/10/24 | 第 13 回日韓女性技術士交流会 | 8 ページ |

## 活動報告

■ （続報）勉強会　～禅とお茶で味わう新春勉強会～

◆ 日　時：2019 年 1 月 27 日（日）14：00～17：00
◆ 場　所：ダイナミック・アート館 2 階 お茶室
◆ 参加者：19 名（本法人 14 名、JWEF[1]3 名、非会員 2 名）
◆ 概要：ダイナミック・アート館 2 階のお茶室をお借りして、座禅による瞑想とお茶会体験を JWEF と共に開催した。

座禅は調身、調息、調心からなり無心になることにより、体・呼吸・心をフラットにすることを目的としている。今回の座禅は宗教色が無くいわゆるストレッチに近いものかもしれない。JWEF 会員の森下さんが講師となり、英語の解説書を配布して（宗教色の無い解説文を探したらこれにたどり着いたとのこと）わかりやすく解説をしてくださり、茶釜でお湯が沸く音を静かに聴きながら、何も考えない、もし何かが頭に浮かんできてもそれを追いかけない、という瞑想体験を 5 分行なった。会議前に 1 分行なうだけでも会議がスムーズに進むとのことで海外の大企業で取り入れているところがあるそうだ。蓮華座を組まなくても椅子に座ったまま瞑想は可能である。




お茶室内の様子（一般参加の白須さん作成）

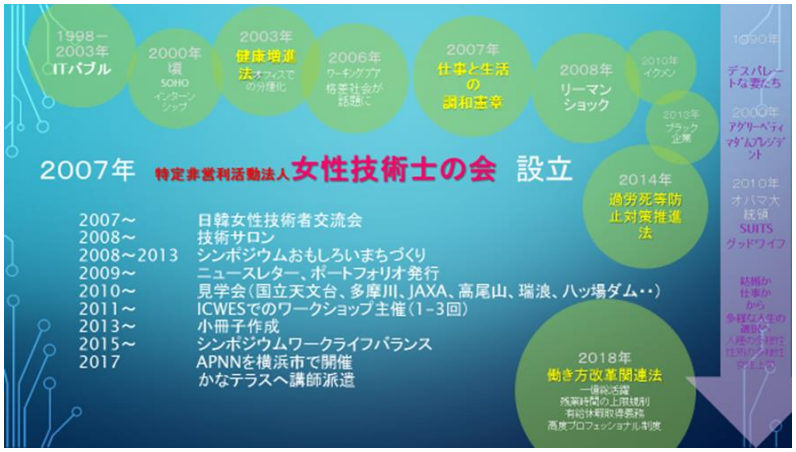
瞑想後に同じ会場にてお茶会を開催した。こちらの茶室は外国の方々や高齢者でも楽しめるよう、座敷脇に同じ高さの椅子がついており、正座した時と同じ高さでお茶を楽しむことができるようになっている。端部の畳目の数まで計算されたこだわりのお茶室である（お茶室の仕様は特許取得済）。

亭主は表千家天内（あまない）先生（ダイナミック・アート館管理者）、お点前と半東（はんとう）は宗偏流、影半東（かげはんとう）は裏千家というミックスなスタッフがお客様方をおもてなしし、天内先生からお床（軸、香合、花）の観賞の仕方、お茶・お菓子の取り方、回し方、頂き方、道具の説明をわかりやすく、楽しく御説明頂いた。終わった後はお茶を点ててみたい方は体験をしたり、お道具を観賞したり、大変充実したひと時となった。

■ （続報）本法人設立 25 周年記念行事・2019 年新年会

◆ 日　時：2019 年 1 月 27 日（日）17：30～19：30
◆ 場　所：ダイナミック・アート館 4 階
◆ 参加者：19 名（本法人会員 14 名、非会員 5 名）
◆ 概　要：新年会は本法人が主催し、場所を 4 階に移して立食形式で開催した。初代理事長の東山先生や女性科学者の会の元理事長の大倉先生もご参加下さり、ベテランから若手まで多様な方々のご参加によりにぎやかなひと時を過ごした。司会を犬走さんが担当し、東山先生、岩熊さん、木村了さんのスピーチを頂き、宮地理事長作成のスライドにより、戦後から現在までの労働環境や多様性の変化と本法人の 25 年の活動の歴史を懐かしい写真を交えながら振り返った。

[1] JWEF：Japan Women Engineers Forum，日本女性技術者フォーラム



科学の発展、技術士の活躍のために私財を投じてダイナミック・アート館を設立された金澤磐夫氏（技術士/機械部門）が、2019 年 2 月 15 日に 94 歳で御逝去されました。社会貢献へのご功労に対し敬意を表すると共に、心よりご冥福をお祈りいたします。 https://www.kanazawaiwao-memorial.or.jp/
（ダイナミック・アート館は、本法人のイベント会場として、度々利用させていただいています。）

■ 震災復興支援事業「福島高等専門学校女子学生を招待しての茶話会」

- 日　時：2019 年 2 月 17 日（日）12：00～14：00
- 場　所：ダイナミック・アート館
- 参加者：女子学生 4 名、会員 5 名、合計 9 名
- 内　容：今年度は福島高等専門学校の女子学生 4 名を招待しての茶話会を実施した。ワーク・ライフ・バランスのイベントが続いたため学生さんに相応しい話題を模索していたが、関矢監事の提案により、ダイナミック・アート館でランチを取りながら気軽に会話をする「茶話会」となった。参加者全員の自己紹介後、「女性が長く働くには？」「男性の中でうまく物事をすすめるには？」などのディスカッションをした。参加学生さんからは、非常によい機会であったと感想をいただき、感想文は本ニュースレターに順次掲載させていただく。さらに、参加した会員それぞれの「職場での過ごし方」に大きなヒントがあり、有意義であった。

## 震災復興支援事業対象者の感想

■ 加藤陽香さん（福島工業高等専門学校産業技術システム工学専攻）　「茶話会に参加して」

私が今回女性技術士の会の茶話会に参加させて頂いたのは、本校の教授に参加してみないかと誘われたのがきっかけでした。実を言えばあまり話が上手くない自覚がありましたし、自分にはとても参考になるよう

な発言など出来ないとはじめは断るつもりでした。しかし、同学年に女子学生が少ないことから他学科の私にもチャンスが来たということを鑑みて、皆様と話せる貴重な機会を逃さないことを決めたのです。

参加した感想としては、やはり参加して良かったと思いました。女性技術者として活躍されている方々の経験や実感がこもった言葉というのは、インターネットサイトや実録本のそれより非常に明確で分かりやすかったです。同じテーブルを囲んで目と目を合わせてお話しさせて頂くことで、講演とはまた違った気持ちで受け取ることが出来ました。

印象的だったのは女性が社会で働く上で何が大変か、というお話です。ジェンダーギャップが騒がれている昨今ですが、一方でそれを解消しようという働きも多くの企業・団体で行われています。しかしそれでも未だに偏見の目で見る方もいるということを知りました。そういう方に実績や物怖じしない発言で認めさせるか、はたまたアプローチ・言い回しを工夫することで円滑に仕事を進めるか、と様々な対処法を教えて頂きました。女性が出産、育児等で会社外の活動に時間を費やす時期に重要なのは、周りの人に協力してもらえるよう日頃から信頼できる人間関係を構築する努力をすることだというお話も身になりました。夫が「手伝う」という表現についての指摘もあり、まだ実生活で男女平等が叶っていない表れだと感じました。

また、今回は悩みも相談してよい、とのことでしたので、企業に勤める上で学士卒・修士卒・博士卒で何かメリット・デメリットはあるかという進路についての質問をさせて頂きました。専門的知識は学歴が重なるにつれおのずと増えるが、その視野は狭まることも多く、就職という観点ではより応用が利く人材が喜ばれるというお話に納得致しました。学術的探究心を優先できるほどのテーマに巡り合えることも一つの幸せだと思いますが、将来的に求められる仕事に対応できるような柔軟性を持つことも大事にしたいです。こういった個人的なお話をしてアドバイスを頂けるのはこういった座談会ならではだと思います。

海外での交流に関しても話題に挙がりました。今後海外での学会発表やプレゼンの機会も増えてくる中でやはり英語が出来ないことが不安でしたが、知識を得たり外国の方とコミュニケーションをとったりするツールとしてやはり必要であること、それ以前に自分の専門知識が伴わなければ英語においても理解がしにくいことを教えて頂き、身につまされる思いでした。ひとまずは専門分野を中心に勉強を続け、英語に関しても拙くとも臆せず使っていきたいと感じました。

女性だから軽んじられる、という風潮を物ともせず、活躍されている皆様のエネルギッシュなお話を伺うことが出来て本当に良かったです。自分も同じように対等に審査されたとき、価値ある技術者だと胸を張れる様に精進したいと思います。楽しく、そして密度の濃い時間を過ごさせて頂き、ありがとうございました。

■ S.S さん（福島工業高等専門学校　専攻科）　「茶話会での意見交換を終えて」

この度、先生からの紹介をきっかけに女性技術士の会の意見交換会に参加させていただきました。このような機会をいただいたことは初めてでしたので、当日は少し緊張もしていたのですが、女性技術士の会会員の皆様方がとても和やかな雰囲気をつくってくださり、終始リラックスして意見交換会に臨むことができました。

意見交換会に参加したことにより、実際に働いている女性の方々のご意見を聞くことができたのはとてもよい経験になりました。私は土木分野を専攻しているのですが、女性技術士の会の会員の方々は土木以外にも他分野にわたって働いている方々がいらっしゃっていたので、ほかの業種のお話を聞くことができて新鮮でした。お話していただいた中で印象に残っている点がいくつかあります。一つは、工業系の企業に勤める上での女性の立場についてです。やはり、土木分野の企業では女性が技術士をとっていても未だに偏見を持った考え方の男性職員がいるらしく、私自身、将来的には土木関係の業種に就職したいと考えているため、そのお話を聞き少しショックを受けました。女性への偏見が多少は残っているものの、働きやすい環境は以前よりは確保されつつあるというお話を聞き、その点については安心いたしました。そのような男性主体の環境の中で女性はどのような振る舞いをするべきかご教授していただき、とても勉強になりました。

二つ目は、チャレンジ精神を持つことの重要性についてです。私は国際学会に参加予定であり、英語での発表を予定しているため、その点に関する不安や質問をしたところ、発表の準備は 3 ヶ月前から徹底して行うべきであることや、簡単な英会話はできるようにしてから本番に挑むようにアドバイスをしていただきました。また、発表途中で単語などを忘れてしまうハプニングがあったとしても、それらはその後の生活に活きる良い経験であるし、今までみていた世界を広げることができるとアドバイスをしていただき、発表に対する不安などが解消されました。現段階で、研究内容をすべて英語で要旨などを作成しなくてはいけないですが、それらにめげずに今後の糧になると信じて邁進していきたいと思います。

三つ目は、育児と仕事の両立についてです。女性の社会進出が進み、出産後も仕事を続けていきたい人が増えている中、育休や産休の取りやすさは、企業により異なることや、企業の福利厚生も重要であるが、第一に家族との協力が必要不可欠であるということをお話していただきました。私は、結婚した後や、子供を出産した後も仕事は続けていきたいと考えているため、実際に働いている方々のお話を聞くことができて今後の参考になりました。

最後に資格の重要性を感じました。技術士になるには、二次試験の受験資格を得るまでに、一次試験合格後、最低でも 4 年間（大学院卒の場合は 2 年間）の実務経験が必要になります。女性は、出産などを経ると、人によっては現場復帰が難しいです。そのような厳しい状況の中、今回お話させていただいた会員の方々は技術士の資格を取得し、各々の仕事をされています。働いていく中で自身の能力を認めてもらうためには、資格を取得することも重要事項のひとつであると再認識いたしました。

今回の意見交換会で学んだことを契機に、さらに自身の専攻分野や関連する業界について深く勉強し、進路に活かしていきたいと思います。この度は、本当にありがとうございました。

## 会員からの発信

■ 酒井一江さん（建設部門　都市および地方計画）　「Ｕターンして天駆ける！」

平成も終わりの年となった。そして新たな時代の幕開けである。ここ 10 年間、二地域居住（東京・岩国）を実験し、これからは地方の時代だと思っていたので、よいタイミングと決断し、若者の街自由が丘から、昨年 10 月、自社淡窓庵ごとＵターンを決行した。50 年ぶりの山口県民である。

岩国市は山口県の東端に位置し、米軍岩国基地と瀬戸内コンビナートの一角と、そして吉川家の城下町の 3 つの顔がある。私の居住はこの城下町を流れる清流錦川に架かる錦帯橋のたもとに位置する。ここは昔から桜の名所であり、錦帯橋は日本三名橋ともいわれ、世界遺産への登録を目論んでいる。毎年、桜の時期には内外の友人たちが来岩し、大層喜ばれる。子供の頃から見慣れた風景ではあるが、歳を重ね、造園の仕事を重ねた所為か、移りゆく時間とともに変化する季節の色や香り、気象、空気感などが改めて実感されるようになった。そしてよくもこの風景が保ってこられたと変わらないことへの感慨も深まる。大いなる田舎である。

朝霧に錦帯橋のシルエットが浮かび桜色が沈む景

さて、荷物の整理も終わらぬまま、現実に引き戻された。隣町で広域公園の再整備に大手コンサルが関わっているが課題が多い。役所もいま一つなので、いろいろ教えて欲しいと地元商工会のメンバーから要請を受けた。そこで法律の改正による事業の展開、エリアマネージメント等の手法、長期視点によるグランドデザインなどの講演をする機会を得た。私が近々に取り組んできたことなので、気負うことなく役に立ててよかった。が、これから少しずつ前に進むように取り組まなければならない。淡窓庵もちょっと張り切ろう！！

一方、2014 年、国土交通省は、「もっと女性が活躍できる建設業行動計画」を策定した。これを受けて、日本造園建設業協会の顧問をしていた私にお鉢がまわってきた。同協会の造園新領域戦略委員会の中に女性

活躍推進部会を立ち上げ、部会長の活動を始めて 5 年になる。同政策によりできた建設業女性活躍推進ネットワークという全国組織にも部会が参画することとなった。また、小池都知事が取り組む懇話会への参加要請により、子育てしながら現場管理をする若手メンバーが仕事と生活をプレゼンテーションすることになり、準備やら予行演習やらとなったのは、去年の秋。まだ東京でのことである。以降、部会として「東京都建設業女性活躍セミナー」への参加や、取材、原稿作成などを求められ、東京都の作成する冊子にもなるらしい。

すでに 46 年間仕事を行い、女性技術士の会開設の当初からライフワークバランスは色々な人と協議してきた私にとっては何をいまさらという気持ちもある。が、国が本格的に取り組み、建設業といえば土木や建築がクローズアップされる中で、多工種業である造園がいろいろな角度から取り上げられるのであれば、そのボトムアップに貢献する役割はあると考え活動している。

そんなわけで、私は引っ越し後も週一回のペースで東京での会議、北海道から沖縄までの地方組織や大学では担い手の育成に向けた出前講座を実施、男性の若手経営者チームとは今後の経営や雇用の戦略など部会ごと乗り入れた勉強会にも取り組み中である。また、作成した小冊子の「働く女性たちを追う」という取材記が好評で、男性もやってほしいという要望を受け、全国から「造園建設業の男前募集」を行い、担当の部会員とともに 18 人の男前たちを取材する全国行脚の機会を得た。役得とはこのことである。

岩国錦帯橋空港が就航したおかげで、便利に忙しく天駆ける営業マンみたいな生活だなぁと苦笑する日々。

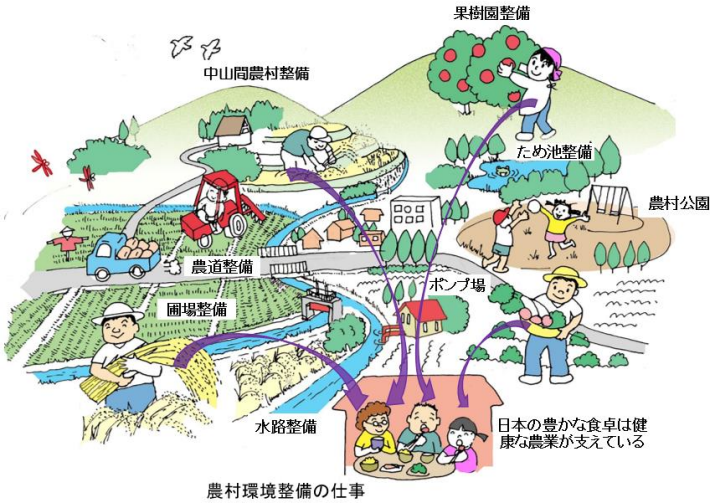
ところで東京へ行く度に、色々な街のホテルを物色して泊まり、少しの時間を利用して街歩きをしている。その昔、私が背伸びをし、いささかの洒落っ気を纏って訪れた青山、原宿、赤坂、六本木界隈は喧騒の中にも大人の街が感じられたが、今はない。建設技術は進んで大きく様変わりをしたが、文化の香らない街々にいささか疲労感を覚え、人気の少ないカフェをみつけて一息ついている今日このごろの私である。

## 【シリーズ企画】技術士の部門紹介　第 10 回　農業部門/農村環境

■ 木村了さん（農業部門/農村環境）　「国の根幹を支える農業」

◆ 「農業部門/農村環境」の概要紹介

農業部門は「畜産」「農芸化学」「農業土木」「農業及び蚕糸」「農村地域計画」「農村環境」「植物保護」の 7 選択科目（専門分野）があります。




それぞれに専門性が必要とされますが、私の分野である「農村環境」は次のような専門性が必要となります。「農村における自然環境」「農業生産環境」「生活環境及び景観の保全及び創出」「地域資源の多面的利用」「廃棄物の再生利用」「環境予測評価その他の農村環境に関する事項」…とても沢山の専門性が必要のように見えますが、技術士という資格は一つの技術に特化するのではなく、多方面の知識を有し、総合的な技術力・判断力に優れていることが選定基準となりますので、どの部門でも専門性は複数要求されます。

特に農業関係は非常に多くの知識を必要とします。何故それほどまでに多くの知識を必要とするか･･･昔から農業を営む人間を「お百姓さん」と言いましたが、本来の意味は百（沢山）姓（かばね）を持っている全ての人民を指す言葉で、「百姓」を沢山の知識の集まり「100 の知識を持つ人々」という考え方もあります。現代的に言うと土質学・土壌学・水理学・植物学・土木工学・気象学・畜産学・科学･･･etc.ありとあらゆる知識が必要な職業ということです。

例えばどうやって田んぼに水を引き込むか？まず用水路を作って持ってこなくてはなりません。それには

地形を見なくてはなりません⇒地形学。次に岩の多い土地？砂の多い土地？粘土質の土地？⇒土質学。水脈からの経路が決まったらどのくらいの勾配で、どのくらいの断面で土を掘ったらいいのか⇒土木工学・水理学。形が出来たらどの時期に水を引き込んだらいいか⇒気象学。‥このように用水路ひとつ取っても非常に多くの知識を必要とする部門です。

◆ 担当業務の紹介

私の専門は建築でしたので 20 代は主に住宅等の建築設計をしていましたが、農業土木の会社に入社し、当時はポンプ場の上屋や機械室を設計していました。数年すると建物の外構も設計させて欲しいとお願いし、建物回りの設計も行うようになりました。そのうち公園等設計も担うようになり、30 代は幼児公園から植物公園や大型の防災公園まで設計するようになりました。40 代に入り面積は更に広がり会社の専門である農村地域全体の計画、農村地域活性化、環境保全計画等を手掛けるようになりました。資格の点では 20 代で一級建築士、30 代一級造園施工管理技士、そして 40 代で技術士ということになりますが、技術士の資格は難易度が高い割には世間で言う「名称独占資格」であり、建築士の「業務独占資格」や衛生管理者の「必置資格」などのように〝その資格がなければ仕事ができない"という資格ではないのでほとんど興味がありませんでした。切っ掛けは 40 代の頃、仕事の発注制度が変わり技術士数の少ない会社の受注は非常に不利になり、そこで私も技術士を受験し現在に至っています。

このように私の仕事は年代で変化しましたが、先に述べたように農業・農村の技術は多義にわたっており、建築・造園は大いに役立ちました。また、技術士の資格に関しては取得前と取得後の周りの対応がガラリと変わると共に責任も負わされるようになり「技術士」の資格の重さを改めて知りました。

具体的な仕事内容ですが 100%公共事業です。国・県・市町村の施策をコンサルタントとして請負い、実際に設計するのですが内容は様々です。ある時は絶滅しそうな動植物を守るために現在の農村の様々な施設を見直す…例えばアスファルトコンクリート道路を剥がして土の道路に戻す、道路が動物の生息域を分断していれば迂回させる、3 面コンクリート護岸の水路を石積み水路や土水路に変える、あるいは人を全く入れないエリアを作ってしまうなどケースバイケースでいろいろな設計を行います。また近年では少子高齢化により過疎地域が増えたために、農業が廃れ、古くからの農村景観が荒廃していくケースも増えています。そのような場合はどのようにして過疎化を食い止めるかが目的となり、農産物の増量、運搬ルートの計画、加工場の新設、あるいは温泉施設や宿泊施設を作り、地場産業を促す。逆に自然の農村風景を再生し地域の豊かな自然で新しい活性化を目指す等、日々新しい挑戦と勉強が続きます。そのためには先に述べたような様々な知識が必要で、とても面白い職業だと思います。特に絶滅に瀕した動植物が再生した時や地域に活力がみなぎり住民の顔に活気が戻った時などがとてもやりがいを感じます。また「農業」は何時の時代でもどの国でも最も重要な産業であり、人間が生きるためには欠かせない産業だと自負しています。

## 運営報告

| 主　体 | 日　時 | 議　題 |
|---|---|---|
| 理　事　会 | 2 月 17 日（日）10：00～11：30<br>4 月 7 日（日）10：00～12：00 | 部会報告、総会準備、運営細則の改訂について<br>活動総括と予定、総会準備について |
| 企　画　部 | 4 月 1 日（月）19：00～20：00 | 企画部 2018 年度報告と 2019 年度計画、総会の講演会について |
| 広　報　部 | 4 月 22 日（月）18：30～20：30 | 理事会協議事項の伝達、ニュースレター（Vol.39、Vol.40）、来年度の冊子改訂、ニュースレター編集担当者について、他 |
| 国　際　部 | 3 月 | JNWES 関連打ち合わせ（木村了　JNWES 理事長） |
| 地域交流部 | メールによる活動 | 会員からの活動ニーズ調査、会員活動情報の発信 |
| 事　務　局 | – | 入退会管理、資金管理、Web 確認　等 |

## 今後の活動予定

■ 第 12 回通常総会

◆ 日　時：2019 年 5 月 25 日（土）14:00～1 7:00（13:30 受付開始）

◆ 場　所：Place W（プレイス ダブリュ）（市ヶ谷）

◆ 概　要：スケジュール（枠内での多少の前後があります）

14：00～15：00 総会　　16：30～16：50 講演 2

15：15～16：30 講演 1　　17：00～19：00 同会場での懇親会

○ 講演 1「変化に対応できる進化型組織～D&I を実現するために～」

講　師：パシフィックコンサルタンツ株式会社 D&I 推進室長 飯島玲子様

内　容：社員の多様性を活かすためには、環境変化のスピードや顧客の価値観の多様化に対応できる「自律型組織」であることが必要とされる。自律型組織とはどのような組織で、どうすればなれるのか。JDN（一般社団法人ジャパンダイバーシティネットワーク）での研究成果を元にお話いただく。

○ 講演 2「Web 会議入門」

講　師：沼澤理事

内　容：最近流行りの Web 会議を初めて実施するには何をどうするのか。初心者に分かり易く説明。

○ 懇親会：同会場で懇親会を開催。　会費 5,000 円

※ 出欠連絡・委任状は登録フォーム https://ws.formzu.net/dist/S22795233/ よりお願いします。

■ INWES[2] APNN[3] 2019 CONFERENCE in ネパール（カトマンズ）

◆ 日　時：2019 年 9 月 19 日（木）～22 日（土）

◆ 場　所：ネパール（カトマンズ）

◆ 活動形態：JNWES[4]としての参加

※ 詳しくは、https://wisenepal.org/conference/ をご覧ください。

■ 第 13 回日中韓女性科学技術指導者フォーラム

◆ 日　時：2019 年 10 月 11 日（金）

◆ 場　所：東京（お茶の水女子大学）

◆ 活動形態：JNWES としての参加

※ 国際会議、懇親会などあります。詳細が決まり次第お知らせします。

■ 第 13 回日韓女性技術士交流会

◆ 日　時：2019 年 10 月 24 日（木）

◆ 場　所：大韓民国高陽（コヤン）市 MVL HOTEL 予定

◆ 活動形態：韓国技術士会女性委員会との共催

※ 高陽市はソウルの北西にあり、ソウル郊外のベッドタウンとして発展しているニュータウンで、金浦空港や仁川空港からバスで 30～60 分と大変アクセスも便利な場所です。皆さん、奮ってご参加下さい。

---

[2] INWES：International Network of Women Engineers and Scientists、JNWES[4] は INWES の加盟団体

[3] APNN：Asia Pacific Nation Network、INWES におけるアジア・パシフィック諸国のネットワーク

[4] JNWES：Japan Network of Woman Engineers and Scientists、本法人は JNWES の構成団体